

こめへる

2025年 6 月号

発行日:2025年6月

発行：佐渡農業協同組合 担当：総務部企画総務課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snov.ocn.ne.jp

春作業指導会 -地力を高めて気象変動に強い稲づくり-

JA佐渡管内では3月に本田作業に向けた春作業指導会を各地域で開催しました。田んぼの土質によって異なりますが、収穫後に田んぼを耕す秋耕という作業があります。この作業は稲ワラや刈り取り後に残った株を土壤にすき込むことによって分解させ、翌年の栄養分にするのが目的です。しかし昨年度は秋の長雨によって秋耕が出来なかった方が多かったため、その対策として稲ワラ分解促進材を活用する方法を紹介しました。冬期に水捌けが悪い場合は、排水用の溝を作る方法も紹介しました。本田作業は稲の初期生育に大きく影響を与えるため対策の周知に努め、品質と収量の確保に繋がられるよう取り組んで参ります。



昨年の振り返りと本年の対策について確認を実施する春作業指導会



溝切機で溝を作り、排水を促す様子

JA佐渡管内 お米作り体験授業始まる

JA佐渡管内では、生産者の協力のもと島内の小学校を中心にお米作り体験授業を行っています。今回は河崎小学校と畑野小学校での体験授業取材させて頂きました。学校田やバケツ稲で田植えから収穫までを行いお米作りを学びます。児童らはお米授業の中で、ニュースで報道されているお米の価格が高いことについて自分なりに考えたり、積極的に質問をしたりと関心の高さが伺えました。今と昔の農業のやり方の違いについて学ぶと農業機械の価格の高さを知り、お米を作るためにはお金が沢山掛かっていることに驚いていました。中には生産者にとってのやりがいとは何か、農業の魅力をもっと知りたいといった学ぶ目的を明確に持った児童もあり、期待に応えられるように努めていかなければならないと感じました。



JA佐渡職員によるお米作りの授業



JA佐渡職員の指導のもと種まきをする



種まきの自動ラインの見学をする児童



種まき後の苗箱を持つと「重っ!」とびっくりする児童

